



知行院便り

発行／宗教法人知行院 東京都世田谷区喜多見 5-19-2 TEL 03-3417-3456 FAX 03-3417-3000



ごあいさつ

知行院住職 坂本観泰

先日、友人の発表会で浅草公開堂へ出かけたのですが、五月八日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、季節性インフルエンザと同じ五類に緩和されたこともあり、浅草寺は多くの観光客で賑わっていました。お店の方の話によると、コロナ前より人出が多かったとか。四年ぶりに三社例大祭の再開が決まっていたこともあって、お話をしたお店の方の表情もとても明るかった印象です。

数年前の研修会で、東日本大震災の被災地の復興についての話しを聞く機会がありました。一般に復興の早い遅いは義援金の問題だと考えがちですが、それよりは、お祭りや集会をいち早く立ち上げた地域が素早い復興を遂げているとのことでした。人と人の繋がりを第一と考え行動に移した自治体が、形は変われども、いち早く日常を取り戻せた。

マスクで顔を隠し、仕事はパソコン相手、宴会などもつての外、そんな四年間を過ごしてきた私たちが元の生活に戻るには、人と人との繋がりを取り戻すことが、手っ取り早い方法なのかもしれません。

先々代観雄大僧正の法話によく出てきたのが「法事の功德」というお話。普段会えない親戚と会って、話して、同じものを食べる。これをこの世の極楽と言わずなんとするというのが大僧正のお言葉でした。極楽とはサンスクリット語で「幸福のある(ところ)」という意味だそうです。

四年間の空白を埋めるには、時間がかかるかとは思いますが、まずは人との繋がりをもとに戻す努力をしていきたいものです。

教えて、住職さん！ 第十一回 お不動さま

お寺のこと、仏教のことで、知っているようでよく解らないことを、ご住職にインタビューして教えていただきます。第十一回目は、お不動さまについて解説していただきました。

(聞き手 編集担当 薄井秀夫)

聞き手 知行院本堂内陣の左側には、不動明王が祀られています。不動明王というのは、どのような仏さまなのでしょうか。

住職 不動明王は、仏さまというより、仏さまの化身と言った方がいいかもしれません。

密教の中心本尊は大日如来ですが、お不動さまはその大日如来の化身であります。要するに、身代わりとして地上に降りていらつしやる姿なのです。

いまだ仏教に帰依していない民衆に仏教を伝え、導くために、姿を変えて衆生済度を行っているのがお不動さまなのです。

聞き手 お不動さまはとても怖い顔をされていますが、それはなぜなのでしょう？

住職 不動明王は、目を見開いて、牙を出して、



下の歯で上唇を噛んで、憤怒相ふんぬそうと呼ばれる顔をしています。怖い顔をしているのは、迷っている人の心や、煩惱の心を打ち砕くためです。言うことをきかない悪い心を力づくで正しい道に導くためです。

怒った顔をしているけど、実はそれは慈悲の心をもって、私たちを導いてくれる存在であります。

不動明王は、右手に剣、左手に罽索けんさくを持っています。

剣を持つているのは、邪悪な心や迷いを断ち切るためです。また罽索けんさくというのは繩のことで、悪を縛り上げ、迷っている人を引き寄せるために持っているのです。

聞き手 お不動さまには、どのような功德があるのでしょうか？

住職 いろんな役割があるのですが、基本的には現世利益です。

日々の生活の中の願いごとをかなえるとか、心の迷いを取り除くとか、そういった身近な願いをかなえてくださいます。

釈迦如来や阿弥陀如来のような如来さま

はともありがたい存在だけど、気軽にいろいろお願いをするには畏れ多い。それがお不動さまは、いつでも近くに来て、願いをかなえてくださる存在なのです。

聞き手 お不動さまの前で、護摩を焚くのはなぜなのでしょう？

住職 仏像には光背こうはいというものがあって、仏像の背景に光や蓮の花びらなどが配置されています。それが不動明王の光背は、炎なんです。つまりお不動さまは、火の中に住んでいるのです。

お不動さまは火をつかさどる存在であり、その炎で人々の邪悪な心を焼き尽くしてください。お不動さまの前で護摩を焚くのは、こうした理由があるのです。

護摩供ごまぐというのは、仏様への供養法のひとつです。

護摩供では、尺木しゃくぼくを壇中央の護摩釜に組んで火を焚きあげます。その釜自体がお不動さまの口だと考えられていて、そのお口の中に直接五穀と油・乳木にゅうぼくを入れてお供えする行法です。

また護摩を焚くと、煙があがってきます。この煙は、我々の煩惱を五穀に込めて、焼き払った後の清浄なものと考えられていて、煙を浴びることで私たちは身も心も清められるのです。

三年籠山に入行

坂本住職の長男、坂本観嶺君が四月一日より本山交衆に入行しました。

本山交衆とは、比叡山延暦寺に於いて、新しい時代の菩薩僧と総本山の後継者の育成を主眼として、昭和四十四年より導入された新しい徒弟教育制度です。坂本住職は昭和六十三年第十六期生として入行し、平成二年四月一日に遂業しましたが、今回、観嶺君は第四十八期生として入行しました。

具体的には、三年間比叡山に籠り伝教大師の精神を学び、能く行う菩薩僧を目指し、日々研鑽修行を行います。一年目、二年目は伝教大師の御廟所・浄土院で十二年籠山をされている侍真僧の助手、比叡山の修行道場、行院での指導助手、延暦寺の年中行事の手伝いなど所謂下座行を経て、三年目には、百日回峰行や四種三昧（九十日間の止観修行）の入行が許されます。

観嶺君は平成九年生まれの二十五歳。名古屋の大学を卒業後、三年籠山を志し、比



「掃除に明け暮れています」

叡山麓の叡山学院へ入学。一年間仏教教学の基礎を学びながら、師匠である比叡山一山葉樹院即真永周師のご指導の下、籠山修行の準備をしてきました。

七月までは、掃除地獄ともいわれる浄土院で早朝五時より掃除に明け暮れる日々を送っているようです。順調に修行が進めば令和八年四月一日に遂業予定です。

京都 曼殊院門跡落慶法要にお招き頂きました

五月二十一日午前十時より執行されました、京都曼殊院門跡第四十三世ご門主の晋山式並びに宸殿の落慶法要に、また午後一時より開催された祝宴に前任職と現任職のご招待を受け、現任職が名代を兼ねて出席を致しました。

曼殊院門跡は、白川通りを北上し、銀閣寺よりさらに上がった京都市左京区に位置します。竹内門跡とも呼ばれる門跡寺院（皇族・貴族の子弟が代々住持となる別格寺院のこと）であり、青蓮院、三千院、妙法院、毘沙門堂門跡と並び、天台五門跡の一つに数えられます。国宝の黄不動、曼殊院本古今和歌集をはじめ、多くの文化財を所有されており、紅葉の名所でも人気の門跡寺院です。

その歴史は古く、他の天台門跡寺院と同様、伝教大師（七六七年―八二二年）の時代に比叡山上に草創された坊（小寺院）が

その起源とされます。その後、十二世紀頃に北山（現・京都市右京区・鹿苑寺付近）に本拠を移し、洛中（現・京都市上京区・相国寺付近）への移転を経て、現在地に移転したのは明暦二年（一六五六年）とのこと。明治五年（一八七二年）に療病院（現・京都府立医科大学附属病院）の建設に際し、その支援のために宸殿を売却し、寄付されているので、長らく宸殿がありませんでしたが、先代藤光賢ご門主の発願が成就しこの度見事に復興されました。

曼殊院様の先代藤光賢大僧正は、知行院先代観晃住職とは青年期から六十年以上の親交があり、その関係で、今回の宸殿の建設に際し寄進をさせて頂いており、又今回晋山された、



新しい宸殿と晋山、落慶の祝宴



西郊良光ご門主とも六十年来のお付き合いということでお招きを頂きました。

本堂にエアコンが入りました

この度、本堂にエアコンを設置させて頂きました。

今の本堂が落慶をしてから、二十六年が経ちました。天井も高いので、エアコンの設置は当初から計画にありませんでした。実際、平成の間は熱中症を危惧するような室温の上昇は無く、暑さが厳しい日でも、扇風機で対応しておりました。ところが近年、年を追うごとに温暖化が進み、令和に入るところには、熱風を扇風機で拡散しているだけで、耐え難い室温になる日も、出てきました。

そこで、簡易のエアコンを二台導入し、扇風機で拡散する風の温度を下げる事を試みました。多少は効果があったのですが、やはり簡易的な機械ですので、運転音も大きく、期待したほどの効果は得られませんでした。

三年ほど前から、数社に見積をお願いしていたのですが、元々高圧の電線が配線されていらない事もあり、予算に見合ったものが得られませんでした。最後に住職の知人が個人で電気工をされていたので、見積もりをお尋ねしたところ、これまでの半値以下で取り付けが可能とのお返事を頂けまし

たので、急遽、エアコンの設置を致しました。天井が高く、かなり広い建物ですので、ご家庭のように冷やす事は難しいかもしれません。汗を拭きながらの法要にはならない事を願っています。

棚経回礼を再開致します

コロナ禍において三年間中止しておりました、棚経廻礼を再開致します。

十分なコロナ感染対策を致しますが、回礼を辞退されるかたは、直接お寺にご連絡ください。

また、新たに棚経回礼をご希望の方も、お寺にご相談ください。

四年ぶりにお施餓鬼法要を

知行院のお施餓鬼法要は、コロナ禍が始まるまでは、近隣のご住職にご

出仕を頂き、新盆を迎えるご家庭や多くのお檀家さんにご参列を頂くという形で行っていましたが、令和二年のお施餓鬼から、密を避ける



塔婆は会館に並べ、11時に住職が開眼します。

ため、院内だけで行うという形にさせていただきます。ありがとうございました。

ゴールデンウィークの行動制限も緩和され、コロナ感染症も位置付けが二類から五類に下げられた事を受け、近隣ご寺院と協議の結果、令和五年度はお施餓鬼法要を復活させる事となりました。しかしながら完全に終息をした訳ではありませんので、感染対策を十分に考慮し、多少スタイルを変更して実施致します。

○法要は午前十一時からに変更。

○法要にはご自由にご参列ください。

○法要のライブ配信を実施します。

(ご家庭でもご覧になれます)

○塔婆は会館に並べ、十一時に住職が開眼します。

○開眼が終わりましたら、法要中もお塔婆をお持ち頂けます。

○時間差でお参りください。

○清掃料等は、終日寺務所で受け付けます。



施餓鬼法要は、youtubeでライブ配信をいたします。上記QRコードから、アクセスしてください。